

子どもから大人、若者から高齢者に至るまでのすべての人の文化を

# 文化高知

2021年8月 NO.222



[もくじ]

- 2～3 あなたを読書にさそいにきました…山中由貴
- 4～5 高知ユナイテッドSCを観に行こう…石田哲朗
- 6～7 「イタドリといえば高知」なのか?…岩佐光広
- 8～9 筋トレは人生だ…隼石将克
- 10 意志…日ノ Hayato
- 11 「アンテナ」五右衛門風呂作り…下尾 仁
- 12～13 高知市文化振興事業団4～6月の事業から
- 14～15 風俗歳時記・風伯

表紙デザイン:「懐かしう、あの空」 玉木 遥

公益財団法人高知市文化振興事業団

# あなたを読書に引きこましました

山中 由貴

本屋に毎日通っている。

そりゃそうだ、私は書店員だ。

出勤して、その日届いた本を棚にならべる、レジで接客する、売場のディスプレイをする、POPをかく、工作する、写真・動画を撮る、踊る……、店でそんな仕事をしている。

いやちよつと待て。踊るってなんだよ？ そう思った人もいるかもしれない。

これはと思った本を売るためなら、中年のからだに鞭うって踊っちゃう、私はそんな書店員だ。

そもそも本が好きだ。

毎日読書しないでは寝られない。ごはんを食べるとき、お風呂の時間、ほんのちよつとの空き時間に本がなければ、イライラそわそわしてしまう。読む時間がないとわ

かっていたって、鞆に本をしのばせないと精神が安定しない病人なのだ。

本にもいろいろあって、よく読むのは小説だ。

とくに最近では海外小説が好きだ。日本の作品には飽きてしまった。

なんて書いたのがばれると、よくしてもらっている出版社や作家さんに悲しがられるから、さつきのはここだけの秘密にしてほしい。

もちろん日本人作家で好きな人はたくさんいる。おもしろいと思う作品もいっぱいある。おすすめの小説はなんですか？ とお客さんに訊かれたら、あれとこれとそれと……と何冊でも紹介するからぜひお店に遊びに来てほしい。（そりゃ、本屋は「遊びにくる」ところだ、と私は断固としていいたいけ

れど、それはまたべつのはなし）

国内小説と海外小説のいちばんの違いはなにか。それはなんと……書かれた場所が違うのだ……！！

（耳を澄ます）

紙の向こうから、あつたりめーじゃねーかバツキヤロー！ という声が聞こえる。でもきいてくれ。やっぱりその違いは大きい。

書かれた場所（国）が違えば、歴史や慣習や宗教や、とにかく自分の育ってきた国の常識ではわからないことがたくさん出てくる。「はじめて知る」ことがどれだけ衝撃的でわくわくするか。それを今日ここで、一冊の本を手にしなから語りたい。

「うう、やれやれ！ またぞろ、あいつまでが出しゃばりおつ

て！ いいかね。あいつはありもせぬ鼻を何にでも突つ込んで来るんだぞ！」

「何ですって？ 鼻がないんですか？」

「もちろん、やつは疥癬かびだんなぞにはけっしてかからないからな」

と、机のむこうのもう一人が言った、「他人の瘡かさを搔くよりほかにすることはないので」

「なぜ疥癬にかからないんですか？」

「やつにはどんな場所もないっていうのはいったい、どこのどんな所に疥癬ができるってのだ？ あいつはな、存在しない騎士なのさ……」

イタロ・カルヴィーノ著『不在の騎士』のおもしろさは尋常ではない。

時は中世、甲冑の騎士が剣を振るう時代、白銀の鎧を着けた、少々正義感あふれすぎる騎士がいた。彼はどんなときも鎧を脱がない。鎧のなかには鼻がない。鼻どころか顔も体も存在しない。そりゃ疥癬にも罹らないはずだ（疥癬とは寄生虫による皮膚病のことだ、こわい）。甲冑のなかはからっぽ、鎧がしゃべり、動き、意志をもつ

ているのだ。

彼、アジュールフォときたら曲がったことが大嫌い。常に軍の裝備を点検したりひとの怠慢を注意したりする厳格さで、お察しのとおり周囲の人に煙たがられている。本人もそれを気にして、話しかけられた気がして「ええっ？」と気さくぶって振り返ってみるのだが、そこには誰もいない。孤独のひとなのだ。

ほかにも魅力的な登場人物がたくさんいる。

日本において、中世の騎士に夢中になることがそうそうあるだろう。しかし読みはじめたらもうぞっこんなのだ。

たとえば女騎士とは知らず、鎧すがたのあまりの凛々しさにあとをつけていった若い騎士は、川で彼女が鎧を脱ぎ、用を足している



ところを目撃して、その黄金の輝きに（なにが黄金色なのかは想像してほしい）うっとり惚れ込んでしまう。なんちゅう場面だと思いなながらも、その描写があまりにも素晴らしいので、こちらもうつとりしてしまおう、というぐあい。ところが騎士たちにも慣れ、読書がノッてくると、急に文体が変わる。あれっ。

物語の隙について、語り手が登場するのだ。  
「この物語をお話ししている私は、修道尼テオドーラ、聖コロンバヌス修道会の尼僧なのです」

そこからあとは、騎士の物語と、それを書くテオドーラの世界が入り混じりながら、おもしろさがさらに加速してゆく。

テオドーラは、女なので戦のシーンをどう書けばいいのかわからない、うまく切り抜けられないかしたら、などと心配顔で、そのくせ直後にめちゃくちゃ具体的な戦闘シーンが繰り広げられる。ところで騎士同士の戦いがどんなものか想像できるだろうか。

全身甲冑をつけた相手を、互いに馬上にいながら長い

槍で切りつけあうのは不毛だ。馬の鞍と相手の尻の間に槍を差し込んでひよいしょ！と跳ね上げ、落馬させるのだという。そんな知識があるなんて、いったい何者なんだ、テオドーラ（笑）。

テオドーラは、修道院の務めとして仕方なしに小説を書き綴っているのだが、しだいにその筆はなんとも気持ちよさそうに紙の上に物語を紡いでいく。この、白い紙に走るペンと、アジュールフォたちの冒険が、文章のなかでうまく重なり合い、くるくると入れ替わる。

なんだこれ。超たのしい。好きすぎる。

騎士たちの冒険は終盤で結びつき、大団円へとむかう。素晴らしいフィナーレは胸が熱く震えるほどだ。そしてそこにはひとつ、思ってもよらない驚きが待っている。

イタロ・カルヴィーノは大胆でユーモラスで、ドラマティックな物語を書く天才だ。

海外小説のおもしろさ、少しは感じていただけただろうか。

日本にはない文化、境遇で生きる人々を書いたものを読むと、その一文一文に発見がある。この一冊をとっても、騎士や修道院での

くらし、戦の描写や食事の光景といった実務的なことからして、すでに知らないことで満ちている。ならば、登場する人々の心の動きが理解できないかというところ、まったくそんなことはない。自分とは国や時代が違う場所で生まれた物語でも、不思議なことに、彼らになりきって冒険をし、恋をし、泣いたり笑ったりできる。共感する能力って、すごいのだ。そのことに気づくと、世界は何によっても分断しきってしまうことはないし、確信できる。違いを知ることもおもしろいけれど「一緒だ」と知ること、また、とてつもなくおもしろいのだ。

さて、明日はなにを読む？

やまなか ゆき

一九八〇年 高知市生まれ。

TSUTAYA中万々店の書店員

なまましんぶん編集長としてTwitterやっています

遊園地のような本屋さんを目指しています！

# 高知ユナイテッドSCを観に行こう



石田 哲朗

高知の皆さま、こんにちは、サッカーチームの高知ユナイテッドSCです。私たち高知ユナイテッドSCは、「大好きな高知のために、高知愛をかたちにする」「高知の子どもたちに夢と目標を」「スポーツでもっと幸せな高知へ」という理念のもと、高知からサッカーJリーグ参入を目指して活動しています。

二〇二一年現在は、四部リーグに相当する日本フットボールリーグ（JFL）という全国リーグで戦っており、二〇二三年のJリーグ参入を目標としています。

サッカーのプロリーグであるJリーグ（J1〜J3）に加盟するチームはJクラブといって五十七チームあり、ほとんどの都道府県には一チーム以上地元のJクラブ

があります。しかし、高知県には残念ながらサッカーをはじめプロスポーツチームがない状況です。高知県でも多くの子どもたちが将来プロサッカー選手になることを夢見て練習に励んでいます。やはり身近に目標となるチーム、選手がいるのといないのでは大きな差があり、現在、県出身の現役Jリーガーは一人もない状況です。

クラブはそんな状況を変えたい、子どもたちの将来の目標となる存在になりたいという想いで活動しています。

今回は、私たち高知ユナイテッドSCのこれまでの軌跡と週末に開催しているホームゲームの様子についてお話しさせていただきました。この機会に高知ユナイテッドSCに興味を持っていただき、ス

タジアムに足を運んでもらうきっかけになると幸いです。

まずは、クラブが歩んできた軌跡を紹介します。

高知ユナイテッドSCは二〇一六年、「アイゴッソ高知」と「高知UトラスターFC」という二つのチームが統合して誕生しました。クラブが掲げる理念はその当時から現在まで変わっていません。プロスポーツクラブがない高知県で、地域の人々が一つになって熱狂できる存在になりたいという想いで活動をスタートさせました。

設立当時は現在所属しているJFLではなく、その下に位置する地域リーグ（四国リーグ）で戦っており、四国では優勝できるものの、JFL昇格のための全国大会では勝ち抜くことができない状況

が続いていました。やはり、普段戦っている四国のチームと、関東や関西など強豪がひしめく地域を勝ち抜いてきた猛者とは数段レベルが違い、全国大会で勝つことは容易ではありませんでした。

また、当時は今ほど新聞やテレビなどに露出する機会がなく、県内の認知度も低く、ホームゲームの観客数も今よりずっと少ない人数でした。ただ、そのような状況でも毎試合大きな声援でチームを鼓舞してくれるサポーターの方や、試合の運営をお手伝いしてくれる





ボランティアスタッフの方などに支えられて選手たちは高知のために戦っていました。

そのような大勢の方の気持ちが届き、二〇一九年の全国大会で長年の挑戦が実を結びJFL昇格を果たします。全国大会が開催された遠く福島県の会場まで応援に駆けつけてくれたサポーターと昇格の喜びを分かち合えた瞬間は今でも忘れられません。

JFL初挑戦となる昨年、シズンは新型コロナウイルスの影響により、リーグ自体が大幅な変更を余儀なくされました。試合数が半分にになり、降格チーム無し、試合によっては無観客試合となるなど大きな影響がありました。しかし、世界的に未曾有の被害が出ている中で、無事にシーズンを終えることができたこと、大好きなサッカーがプレーできたことに対して、支えてくださったサポーターやボランティアスタッフ、スポンサー、関係者の皆さまにはとても感謝しています。

今年も引き続き観客数を抑えるなど影響は残っていますが、おかげさまでたくさんの方にスタジアムに来ていただき試合を開催できています。

ここからはそんな私たちのホームゲームの様子を紹介します。

皆さんは高知ユナイテッドSCのホームゲームをスタジアムで観戦したことがあるでしょうか？きっと多くの方はまだスタジアムに足を運んだことがないと思います。高知ユナイテッドSCのホームゲームではサッカーが好きな人・そうでない人、小さいお子さんからおじいちゃん・おばあちゃんまで老若男女楽しめる、感動していただけのスタジアムづくりを目指しています。

皆さんにスタジアムを楽しんでいただく上で、まずは何と言っても選手たちのプレーを見てください。選手たちは試合終了のホイッスルまで諦めることなく全力でプレーします。今は、新型コロナウイルス感染防止のためサポーターの皆さんが声を出して応援することはできませんが、高知ユナイテッドSCのサポーターは手拍子や鳴子で会場が一体となって選手たちを鼓舞します。試合に勝ったときはみんなで喜び、負けたときは悔しがる、この瞬間



は感動すること間違いなし。そんな瞬間をスタジアムで一度でも体験すると高知ユナイテッドSCを好きになつていただけるはずですよ。また、プレー以外でも来場者に楽しんでもらえるように工夫を凝らしています。

スタジアムに入るとまず、美味しい匂いがする飲食ブースが目についで入ります。高知県ならではの美味しい食材を使った味をお腹いっぱい満喫できます。飲

食ブースで食欲を満たしたらスタンドへ向かいます。その途中で高知ユナイテッドSCの選手たちが皆さんを出迎えます。選手たちと挨拶を交わすとサッカーを知らない人でも親近感を持つていただけます。スタンドで席に着き、試合開始が近づいてくると皆さんの緊張も高まってきました。そんな時には試合前に小学生のチアダンスチームによるパフォーマンスを見て少しリラクセスしましょう。子どもたちが元気に踊る姿を見ると皆さん笑顔があふれます。

そしていよいよお待ちかねの試合開始。九十分間、片時も目を離すことができない試合をお楽しみください。

高知ユナイテッドSCの選手、スタッフ一同皆さんのご来場をお待ちしています。ぜひ会場でお会いしましょう！

いしだ てつろう

一九八七年 東京都中野区生まれ。

高知ユナイテッドスポーツクラブ

営業・広報

# 「イタドリといえば高知」なのかな？

岩佐 光広



## イタドリとは

イタドリ (Fallopia japonica) は、タデ科の多年生の植物である。東アジア原産で、日本だけでなく、中国や台湾などにも分布する。日本の場合、北海道から九州にかけて、全国の山野や荒地地などに生えている。春先になると、地中を横走る地下茎から新芽が芽吹く。かすかな紅色の斑点のある茎は直立し、一・五メートルほどに達し、楕円形の葉をつける。夏場には円錐状にまとまった白や赤の小花を咲かす。冬期を迎えると、地上部の茎などは枯れ、地下茎だけで冬を越す。

イタドリは、漢方薬、観賞用の生花、染色などさまざまな利用されるが、最も一般的なのは食用だ

ろう。食用にするのは、春先に出る若い茎部の先の方である。緑の表皮にかすかな紅色の斑点がある若茎の中は空洞で、折るとポコッとという小気味よい音がする。表皮を剥いて生で食べると、カリッとした歯ごたえで、瑞々しく、少し酸っぱい。塩漬けにしたり乾燥させたりして下ごしらえしたものは、煮ものや炒めものなどさまざまに料理される。

## 日本各地で親しまれてきたイタドリ

このイタドリを好んで食べることを高知の地域性とみなすような語り口はよく耳にする。たとえば、農林水産省の『うちの郷土料理』

というページ(※1)には、高知の郷土料理として「イタドリの油いため」が挙げられている。また、高知県庁のホームページ(※2)に掲載されているある記事では、イタドリを「高知のソウルフード」と言っている。こうしたものを見ると、「イタドリといえば高知」と言えそうだ。

しかしである。イタドリについて書かれた文献や資料を読んでも、必ずしも言えないようにも思えてくる。たとえば、有岡利幸『資料 日本植物文化誌』(八坂書房、二〇〇五年)を取り上げよう。その本の「虎杖(イタドリ)」の章の冒頭で有岡は次のように述べる。「むかしの田舎の子どものちのおやつといえば、野山に生えているイタドリ、キイチゴ、スイ

バ、グミなどで、菓子類などはめったに食べられなかった。……イタドリは立派なおやつだった。」(四二九頁)

先に述べたようにイタドリは日本全国に分布しており、子どものおやつや食材として日本各地で広く親しまれてきた。有岡は、イタドリには約六〇〇種に及ぶ方言での呼び名があり、「わが国に生育する草木の方言では最多であるといつていい」(四三六頁)とし、その地方名の多さから「イタドリがどれほど身近な植物であったかがうかがい知れるであろう」(四三八頁)と述べている。イタドリに馴染み深いのは、どうも高知だけというわけではないようだ。

## 高知の暮らしに埋め込まれたイタドリ

しかしである。それでもやっばり、「イタドリといえば高知」と言えると私は思っている。それは次のような経験があるからだ。

五年ほど前から、高知県東部を中心に、地域住民の方にインタビ

ユー調査を行っている。そこでは、一人の方に二時間ほどの時間をとって、生まれてから現在に至るまでの人生を語ってもらうことを基本としている。そうしたインタビュウをしていると、話のなかにイタドリが登場することがある。私の好きなエピソードをひとつ紹介しよう。

安芸郡北川村の山間部の集落に住んでいるサチコさんは七〇代後半の女性である。出身は徳島県で、二十歳の頃にお見合い結婚でこの集落にやってきた。徳島から山を越えて歩いて嫁いできたというサチコさん。急峻な山の谷間を流れる奈半利川をはじめ見たとき、その美しさに息を飲んだという。

しかし暮らし始めてみると、隣り合う県ながら、徳島と高知とではいろいろと勝手が違った。言葉も慣れない。高知の山の暮らしにすぐには馴染めなかったという。



イタドリの表皮がうまくむけて嬉しい私

そんなある日、近くに住む女性が「一緒にイタドリ採りに行かないか？」とサチコさんを誘いにきた。徳島ではイタドリを食べることがなかったので少し驚きながらも、折角のお誘いだからと一緒に行ってみた。同じ集落の数人の女性と連れ立って山に入り、ワイワイと話しながら、イタドリやフキをたくさん採った。戻ると今度は、皮を剥ぎ、水にさらし、塩をまぶして下ごしらえ。やり方を教えてもらい、車座になって作業をした。そのあとはイタドリの料理の仕方を教えてもらって、一緒にご飯を食べた。

このイタドリ採りをきっかけに

サチコさんは集落の女性たちと打ち解けることができたという。そして、不慣れな高知の山の暮らしを支えてくれたのは、この仲良くなった女性たちだったという。いまではイタドリを採るのも料理をするのもお手の物のサチコさん。イタドリがつながりをつくってくれた女性たちとは、いまでも仲良しだそうである。

サチコさんのエピソードのように、高知の年配の女性にお話を聞いていて印象的なのは、イタドリ



天日干しにされるイタドリ

をおやつとして食べたという子どもの頃の思い出にとどまらず、人生のいろいろな時期を振り返る語りのなかに、ごく自然にイタドリが登場してくることである。そんな語りを耳にするたびに、イタドリが高知の人たちの、特に女性たちの暮らしのなかにしつかりと根付いているのだと強く感じさせられる。そして、その度ごとに思う「えば高知」だと。

※1

[https://www.naff.go.jp/j/kekaku/syokubunka/k-ryouri/search\\_menu/menu/itadorinoaburaitane\\_kochi.html](https://www.naff.go.jp/j/kekaku/syokubunka/k-ryouri/search_menu/menu/itadorinoaburaitane_kochi.html)

※2

[https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/120801\\_2018072600125.html](https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/120801_2018072600125.html)

いわさ みつひろ

一九七八年 福島県生まれ。

高知大学人文社会科学部准教授

# 筋トレは人生だ

## 雫石 将克

「何のために筋トレしてるの?」「なにを目指しているの?」「絶対自分のこと好きでしょ?」

私が言われる言葉、ベスト3です(笑)。今回は自身の考えも含め、筋トレへの想いをぶつけます!

初めまして! RKC高知放送アナウンサーの雫石将克です。入社六年目になり、今は夕方の情報番組「eye + SUPER」のMCを月曜から木曜で担当しています! 幼い頃からずっと運動をしています。まずは野球です。小学一年から大学卒業まで「プロ野球選手」を目指して朝から晩まで練習の毎日。でも夢は届かず…。ならばスポーツに打ち込む人の姿を伝える

実況がしたい!! スポーツ実況がしたい!! とアナウンサーを目指して就職活動、今に至ります。

学生の頃は野球と同時にできるだけ勉強も頑張ってきたつもりです(笑)。通っていた学校が共通して「文武両道」を校訓にしていたので、ひとつのことだけじゃなく二つ以上のことを頑張る、というのを学生時代は学びました。社会人になっても「仕事」のひとつだけを頑張るのはこれまでの学びを活かしていないと思っ

た。なにか本気で打ち込めることを探していたときに、健康維持のために通っていたスポーツジムの代表で、男子ベンチプレス世界チャンピオンの経歴をもつYさんと

の出会いが。「ボディコンテストに出てみない?」Yさんのこの誘いが私のライフスタイルを大きく変えることに。二〇一八年の秋。私の勤務と、筋務、人生の幕開けです。

一般的にボディコンテストは二つのジャンルがあります。ブーメランパンツを履き、ポーズをとるボディビル。サーフパンツ(膝丈の海パン)を履くフィジーク。二つの違いは太ももやお尻の筋肉も採点基準かどうかです(フィジークは太ももが隠れるので基本的に下半身は審査されにくい)。まず私が目指したのはフィジーク寄りのベストボディジャパンという団体のコンテストでした。



とにかく身体の脂肪を削ぎ落とすために減量に取り組みました。結果的に四カ月で二一キロ減(笑)。今思うと効率は悪いし、知識も乏しくハチャメチャな減量でした。こんな経験もあってよかったかなと思っ

てます。具体的には、食事は一日一回。お昼に鶏の胸肉三〇〇グラムとブロッコリー。お腹が空いたらプロテイン(笑)。もう一度言いますが、間違った減量方法です(笑)。有酸素運動も一日三、四時間はしたかな…。そうして迎えた二〇一九年の秋。高知県で行われた四国大会で四位になり、そ





の年の日本大会への権利も獲得。日本大会では六位という結果でし  
た。この結果が良いのかどうかは  
わかりません。ただ間違いなく自  
分との闘いには勝つことができた  
と確信しています。私にとってポ  
ディメイクは自分自身と向き合う  
ことのできる大切な時間。そして  
筋トレが大好きになりました。

コンテストを終えた三カ月後、  
勤務では全国高校サッカー選手権、  
九十八回大会の全国実況を初めて

担当しました。人生最大の緊張。  
自分の心臓の音もはつきりと聞こ  
える。この日に備えて実況の練習  
もし、解説の中田浩二さんの著書  
も読んで、やるべきことは全てや  
りました。それでも実況席に座る  
と、不安が……。けれどそれを打ち  
消したのが「あれだけ一生懸命筋  
トレして自分に負けずに減量でき  
たから大丈夫だ！今回もしつかり  
準備している！」という筋トレか  
ら生まれた自信でした（笑）。

仕事とプライベートの過ごし方  
は関連していると考えています。  
高校生の頃、大事な試合で見逃し  
の三振をしてしまいました。監督  
に教えてもらったのは「私生活で  
もいろんな見逃しをしているんじ  
やないのか？」と。ゴミが落ちて  
いたら見逃さずに拾う。私生活の  
見逃しを減らしていくことがグラ  
ウンドでのプレーに繋がる。不思  
議なことに、ゴミなどを見逃さな  
いという取り組みをした結果、見  
逃し三振は減りました。それは打  
席で追い込まれても余裕ができ、  
自分に自信が持てたからだと思います。

今の私にとって仕事とポディメ  
イクの関係性は崩せません。だか  
ら「何のために筋トレをしている  
の？どこを目指しているの？」  
ということに関しては「自分に自  
信を持つため、自分を好きになる  
ため」と答えています。どんなこ  
とがあっても自分から自分を切り  
離すことはできません。そばにい  
るのは自分自身。なのに嫌いつて  
もつたない！自分を好きになる  
には、「①一生懸命何かを頑張れ  
ているか？②誰も見ていないとこ  
ろでも努力出来ているか？③自分  
との約束を守れているか？」。私  
の場合こういった積み重ねをクリ  
アしていくことで自分を好きにな  
れる、自分に自信が持てる、そん  
な自分と向き合えるひとつの手段  
がトレーニング、ということでは  
す。

対人関係においても、人から好  
かれるためには、まず自分が自分  
のことを好きじゃないと……。嫌い  
な自分を好いてほしいというのは  
矛盾ですよ。恋愛においても！  
（笑）。究極は自分が死ぬ直前に  
「俺の人生は最高だった、よく頑  
張った俺」って自分のことを褒め

ながら眠りたいんです（笑）。だ  
からやりたいことは全部チャレン  
ジしたいと考えています。

「アナウンサーなのに筋トレば  
っかりして」とか「やたら自分に  
自信もってるよね」という否定的  
な意見は少なくありません（笑）。  
でもSNSなどを通して多くの皆  
さんから「僕も今日一日がんばり  
ます！」などのメッセージをいた  
だくことも増えました。誰に何を  
言われても好きなことを続けて、  
自分をもっと好きになる。私にと  
つての筋トレは身体作りだけじゃ  
なく、人生作りのひとつでもあり  
ます。大人になってなにかに情熱  
を注ぐ機会は少なくなる中、アナ  
ウンサーに、トレーニングに、好き  
なことに打ち込んでいる環境に感  
謝！さあ、今日も勤務と筋務だ。

しずくいし まさかつ

一九九三年 さいたま市生まれ。  
RKC高知放送アナウンサー

# 意志

日ノ Hayato

二〇二〇年四月に太鼓芸能集団「鼓童」から独立した後、故郷より高知へ拠点を移しました。そして、その後間もなく、フランス・パリの劇団の方々に向けて、一カ月間和太鼓のワークショップを行いました。

私自身、一カ月間海外にてワークショップを行うという経験は初めて。まさに試行錯誤でしたが、まず最初に、日本の礼儀作法を伝えることから始めました。手足を揃え、意識を揃え、皆で呼吸を合わせて「よろしくお願ひします」と一礼を致します。日本の挨拶は、心身統一のための重要な儀式。挨拶を終えた後は、導入として体操

を行います。体操では身体を温めた後に、自然な身体の状態に向かう様に、身体をゆるませる運動を行います。自然な状態に近いほど、無理なく、最大限パフォーマンスを発揮することができます。この時、同時に、感情もリリースしていきます。浮かび上がる感情を受け流し、ただ自己を内観し、あるがままに任せること。

太鼓は、木と牛の生命から成り立っています。自らのエゴでは、生命や自然の偉大さには敵いません。だからこそ、ニュートラルで

いることがとても重要なのです。もちろん、大人数で演奏する時、この感覚は大切です。音は目で見て合わせるのではなく、身体全体肌で感じて合わせます。この繊細さを演者達全員が備えていると、全体の音やノリに自然と一体感が生まれます。言語の壁がある中でしたが、これらの技術以上に大切な礼儀作法や心の在り方を、特に重点的にレクチャーしました。結果、それが音に繋がりが、姿勢に繋がりが、ひいては演奏の一体感に繋がっていきました。そして、最後に成果発表会を行った際にも、会場の一体感を肌身で感じる事ができました。

個人的に嬉しかったのは、今回のワークショップを通じて演者同士の絆が深まったという声や、コミュニティションが改善された、という感想を頂いたことでした。太鼓の可能性を改めて感じた瞬間でもありました。

この様に太鼓は、心の在り方がとても大事な要素になります。もちろん、技術や体作りも大切ですが、礼儀作法、そしてニュートラルな自分であること、加えて自分が何を目指し、どう思い、太鼓に向かうのかという「想い」も、とても重要です。私は、この考え方を大切に、この高知の地で演奏活



動や教室を開催しております。また、学校の子どもたちへのレクチャーや歌手の方々とのコラボレーション、そしてオンラインで行うワークショップ等、様々な活動を展開しております。

「太鼓の良さをより多くの方に届けていきたい、そして是非、触れて頂きたい」。その思い、そして自らの意志が羅針盤となり、人生を創っていくのだと確信しております。この生命絶えるまで、私はきつと、そうして生きていくのだと思います。

## ひの はやと

Sound Artist / 音楽芸術家

一九九五年 茨城県取手市生まれ。現在、高知県在住。和太鼓を中心に打楽器での演奏活動を行う。また、感性を育むことを目的とした独自のワークショップや、楽曲制作にも力を入れる。音楽というジャンルの枠を超え、国内外で精力的に活動中。  
標語…『一所懸命』生命を燃やし、使い切る。

# 「アンテナ」 五右衛門風呂作り

下尾 仁



今でこそユーチューブで五右衛門風呂の作り方など沢山アップされているが、今から十三年前、僕は五右衛門風呂を自宅の屋上に作りたいと思った。何故作りたいと思っただけは自分でも謎である。僕はその時、何かに取り憑かれていたのかもしれない。

まず製作にあたって大事なのが風呂釜である。今でも新品も販売されているのだが、だいたい八万〜二十万ぐらいと高額で、買うのはもったいない。そこで僕は、田舎や山などに放置されて不用になった釜を探す事から始めた。空いた時間にスパーカーにまたがり通ったこともない山道を走っての釜探しは、まさに宝探しのように楽しくてしかたがなかった。だいたい見つけた釜は畑の隅っこに置かれ、ゴミなどを燃やすために使われていて底が抜けたりで使い物にならなかった。いい状態の釜を

見つけたら持ち主に声をかけ譲って欲しいとお願ひするも、警戒されたり、欲しいと言われれば、価値があると思っただけ、直ぐにいいよとは言ってもらえず、釜を手に入れるまでは、なかなか苦労した。ある日、山登りの好きな知り合いに風呂を作りたいた話をしてみると、大豊の奥の廃墟で見た覚えがあるので一緒に行ってみようかと言ってくれた。すぐに現場に行き釜を確認。今まで見たどの釜より状態も良く、これが貰えたらと持ち主を探した。

その廃墟から一番近くの家で聞いてみると、廃墟の持ち主の電話番号と住所を教えてくれた。すぐに電話をかけ、釜を譲って欲しいと頼んでみると「全然いいよ、あげるあげる」と言ってくれた。聞いた住所に酒を一升持って行き、念願の釜を酒一升で手に入れることができた。

これからはどういうふうにするかである。最初にも書いたが、この頃はまだ、ユーチューブもあまり浸透しておらず作り方がわからなかった。かろうじてブログなどで作り方を写真付きであげている人がいたのでなんとなく作り方を勉強し材料を買い入れた。火に強い耐火レンガや耐火セメント、風呂のまわりは石風呂風にしたかったので大量の石、全ての材料を一人で屋上まで運ぶのは凄く大変な苦労であった。黙々と材料を運ぶ僕は確かに何かに取り憑かれていたのかもしれない。作っている最中は取り憑かれて



憑かれてはつきりとした記憶はないが、出来上がって初めて入る五右衛門風呂は、夕日が沈む時間帯にビール片手に入浴し、湯船に入った瞬間、



風呂作りの労力と取り憑かれていた何かが溶けていくように薪で焚かれた丸いお湯が僕を包み込み、自然と「ふう〜」と声漏れした。本当に気持ち良かった。それから程なくして僕は自宅にカフェをオープン。カフェの名前は「じんぜんじゅ」。秦泉寺という地名にちなんでつけた名前だが最後に小さな「ゆ」がついている。そう、小さな「湯」。秦泉寺湯なのだ。

この五右衛門風呂は、朝の報道番組「あさチャン」や高知家公式PVでも紹介されたり、オッパッピーでお馴染みの小島よしおさんが、ふらりと一人で店に訪れた時に、入浴していったりと、僕もまったく想像していなかったことが起きている。放置されていた五右衛門風呂は風呂として蘇り、これからのいろいろな人の汗を流し、思いもよらない物語を作っていくのかもしれない。

しもお ひとし

一九六九年生まれ。

岡豊高校一期生。二十五歳ぐらいに演劇に目覚め、日夜面白い事はないかとキョロキョロしている。



# 4～6月の事業から

## 第七十三回 高知市展

二年振りとなる高知市展を五月二十九日（土）から六月十三日（日）に高知市文化プラザかるぼーと七階市民ギャラリーで開催しました。

第七十二回となる昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止としました。当初、新型コロナウイルスがどういったものか、高知県でどれだけ感染者がでるのかわからず、開催を検討する会議でも開催するか、中止すべきかの意見が分かれましたが、出品者や来場者などに高齢者が多いことから、全員の安全を考慮して第七十二回の高知市展を中止するという苦渋の結論に至りました。

年が明けて第七十三回高知市展の検討時期になっても、状況は全く安心できるものではありませんでした。しかし一年の間



搬入時も万全のコロナ対策

に蓄積された新型コロナウイルスへの対策情報をもとに、どういったことに注意すれば安心して市民に参加してもらえるかを検討し、万全の対策を講じて、第七十三回高知市展の開幕を迎えることとなりました。

残念ながらオープニングセレモニーは中止とし、出品者数・点数ともに減少となりましたが、出品された作品は出品者の思いや情熱が感じられるパワーあふれるものが多く、一年のステイホームの間にそれぞれが自分の内面や作品に向き合ったことがうかがえる、見ごたえのある展示となりました。

（入場者数 千七百三十名）



今年の研究会は3密に注意して

### Culちやーず

入会のご案内  
高知市文化振興事業団サポーターズクラブ

高知市文化振興事業団は、市民の皆様へ芸術・文化等により親しみを持っていただき、皆様とともに高知の文化を盛り上げるためサポーターズクラブ「Culちやーず」を設立しています。

- 特典1 主催事業の招待（年間2枚まで）
- 特典2 主催事業チケットの1割引販売（1公演1枚まで）
- 特典3 横山隆一記念まんが館企画展招待（年間2枚まで）
- 特典4 「文化高知」の送付（年間4回）

会費 3,000円/年  
有効期間 4月1日～翌年3月31日  
※途中入会の場合、入会日から3月31日まで

お申し込みお問い合わせ  
公益財団法人高知市文化振興事業団 TEL:088-883-5071  
email:kikaku@kfca.jp http://www.kfca.jp/kikaku/



# 高知市文化振興事業団

## いきいきセカンド☆ ライブ講座

四月から六月にかけて、いきいきセカンド☆ライブ講座を開催しました。コロナ禍の下での開催となりましたが、火曜日コース四十三名、水曜日コース五十五名、金曜日『文学講座』コース三十八名が参加しました。

火曜日・水曜日コースでは、ジャンルを問わず誰もが楽しめる内容を企画しました。

特に、「ワイン作りを通して目指す事」は、仕事の取り組みだけでなく、よりよい高知の未来をつくるためにできることなど、講師の高知愛に溢れる熱いお話が展開され、受講生も大きくうなずいたり、熱心に聴いていました。

金曜日『文学講座』コースでは、江戸川乱歩や村上春樹の作品を取りあげ、作品だけでなく、作家の人物やエピソードまで紹介され、充実した講義になりました。

〈参加者数合計 百三十六名〉

## 第一九四回 市民映画会

六月十八日(金)・十九日(土)にかかるぽーと大ホールで第一九四回市民映画会を開催しました。

市民映画会は、高知では公開されていない文化の薫り高い劇場画を低廉で提供することを目的に、一九五一年に始まり、これまでに四〇五本の映画を上映しています。今回の上映作品は「また、あなたとブッククラブで」と「タレントタイム 優しい歌」でした。

「また、あなたとブッククラブで」は一九七〇〜八〇年代にかけてアメリカ映画の礎を築き、今も輝き続ける名女優四人の初共演作。

劇中行われる「ブッククラブ」とは、友達同士で持ち寄った本を読み、感想を語り合う読書会、友達同士だからこそ、緩く楽しい雰囲気から始まることで自然と作品に没頭させてくれます。一冊の本をきっかけに、主人公四人のそれぞれの物語が流れるように進んでいく中で、途中で挟まる「ブッククラブ」が幕間の



ような役割を果たしており、鑑賞する側に想像の余地を持たせつつも間延びせず、気持ちのいい展開が続きます。自然と元気になる作品で、楽しい時間を過ごすことができました。

「タレントタイム

優しい歌」はいつまでも胸にしまつておきたい青春のみずみずしさを描く物語。



多民族国家マレーシアならではの宗教に対する考え方など、日本ではイメージしにくい部分が物語の根幹にあるものの、知らなくても理解できるような話の構成のおかげで、難しく考えずとも物語に入り込めました。また、何気ないシーンに意味があったり、前半のシーンに後半は別の意味を持たせることで、観終わった後に心地よい余韻と考察の余地が残ります。挿入歌も名曲揃いで、映画が終わった後も楽しめる作品でした。

テイストの違う二作品ですが、両作品ともスポットライトの当たる人物が多く、一人ひとりにそれぞれ物語があることを改めて感じました。

〈入場者数 三百四十七名〉



## 高知を撮る

第37回写真コンテスト入賞作品

### 初夏の摘花作業

(令和2年5月30日 南国市前浜)

松木 宣博

南国市にて。タバコには5月になるとラッパ状でピンク色の綺麗な花が咲きます。しかし、収穫する葉に十分な栄養を行き渡らせるため、花は咲くと同時に切り取られていきます。

の町紙の博物館では、トリエンナーレ展の安定的な継続を目的に、外国人作家の作品を会期終了後に販売している。絶好の作品購入のチャンスとはかり、ご近所のママ友を誘って紙の博物館まで足を運んだ。

館内の一フロアいっぱい、直近二回の版画作品が広げられていた。衝立の裏には、さらに過去の回のものも。通常の展覧会とも違う不思議な空間に迷い込んだ感覚になって、作品の箇をゆっくり歩きながら眺めることができる。不思議なもので、あまりに多くの作品が隙間なく置かれていると、どれが良くて、どれが自分の感性と違ってくる。結局、「飾った時に部屋が陽気になるのか」ということに主眼を置き、やっと一点を選び出した。イタリアの作家のエッチングで、大きな唇や動物がデフォルメされた建物群、その前を流れる川を裸のキャプルの乗ったゴンドラが浮かんでいるというもの。今にもカナンツォーネが聞こえてきそうなベネツィアの風景だ。国際版画トリエンナーレなので、世界中の版画家が出品してき

## 展覧会と資金調達



### 風俗歳時記

しかも次の展覧会のために貢献できるといって有難い仕組みだ。

最近、クラウドファンディングが多く使われるようになってきているが、資金調達にはいろいろな方法がある。紙の博物館の例もお手本になりそうだ。

(立花香)

美術館のように、安価に購入して家が

三年に一回とは言っても、運営資金の調達はやはり厳しいだろう。海外からの作家の作品を出品者了承の上で販売し、売上金を次回の展覧会の資金に生かすというシステムは実によく考えられている。国際色豊かな多くの作品の中から選べ、安価に購入して家が

語で司会も務めた。

ていて、お国柄が見て取れるのも興味深い。

紙の博物館の国際版画トリエンナーレ展が始まった三十年前、私は芸術文化関係の取材に各地を奔走していた。第一回トリエンナーレ展の開催にこぎつけるまでをドキュメントし、レセプションでは海外からの客人が大勢集まる中、たどたどしい英語で司会も務めた。



高知市立中央公民館事業 2021 秋  
市民学校のご案内

秋の市民学校のお申し込みを受け付けます。  
お申し込みや講座についての詳しい内容は  
文化振興事業団 ☎088-883-5071 まで

曜	科目	科目
火	朝 和紙ちぎり絵	昼 フランス刺しゅう
	昼 銀粘土クラフトジュエリー	夜 油絵の基礎
水	朝 楽しいくらしの英会話	朝 伝統工芸・組紐
	朝 大人のためのピアノ教室	昼 初心者のための 民謡・歌謡舞踊教室
	夜 陶芸入門	開催時間 朝 10:00-12:00
木	朝 のびのび体操	朝 アロハ・ルアナフラ
	昼 絵手紙入門	昼 やさしい手編み教室
	夜 美文字クリニック	夜 ヨーガ入門 (夜)
金	朝 竹細工入門	夜 英会話入門
	夜 着物 (着方とマナー)	開催時間 昼 13:30-15:30
土	朝 ヨーガ入門 (朝)	昼 日本画の基礎
	昼 大人が素敵に見える服	開催時間 夜 18:30-20:30

風伯

「地下足袋」

かえって使い易い。  
時間が許せば畑にいたことが多くなってきたが、アスファルトの道を歩いたり、山道を歩いたりもする。これがなかなか使い勝手がいい。癖になる。足との一体感があり、暑い夏にも蒸れることもない。イメーシは裸足で歩いているような感じだが、しっかり足を守ってくれる。

これまで地下足袋など履いたこともなかったが、いまはクッション性の高い高価な靴よりも、地下足袋の機能性がすっかり気に入っている。地下足袋は、足袋を下足用に丈夫にしたものと考えていいが、いま私が使っているのは爪ではなくフアスナーでフクラハギまで隠れてしまうもの。クッション性はまったくくないが、それが土の上では

これで車の運転をするとかクセルを足裏に感じ、きめ細かな運転ができる。靴よりも下駄、下駄よりも草履に近い。地下足袋を履くようになって、足裏からいろんな情報が伝わってくる。均した土のちよっとした凸凹もわかるし、何を踏んだかのおよその見当はつく。「や」と野菜が育って明日には収穫しようという日の夜、一足先にほとんど猪に収穫されてしまった」というような話を、畑をするようになってよく耳にする。自然から遠ざかり、便利さばかり追い求めたことで、人間はいつのまにか野生動物が持っている優れた感覚を失ってしまったのでは。失ってしまったことであるんな弊害があるが、その弊害さえ気付かないことも多い。その優れた動物性五感を取り戻すために、もっと自然に触れて、そして地下足袋を履こう。

(霖)



秘密への招待状

第195回  
市民映画会 9月17日(金)

高知市文化プラザ かるぼーと大ホール

秘密への招待状  
①10:45 ②15:10 ③19:30  
シラノ・ド・ベルジュラックに会いたい!  
①13:00 ②17:20

【入場料】一枚のチケットで両方の作品をご鑑賞いただけます。  
一般：前売券 1,300円、当日券 1,500円  
割引：1,000円 (前売・当日とも)  
※学生証、長寿手帳、障害者手帳等をお持ちの方は割引  
【お問い合わせ】高知市文化振興事業団 088-883-5071



今号の表紙

「懐かしう、あの空」

玉木 遥

ふと空を見上げた時に飛行機雲を見つけるとコロナ禍でしばらく会えていない親戚や友人の顔が浮かび、どこか懐かしい気持ちになります。そんな懐かしいあの空をセピア調で表現しました。

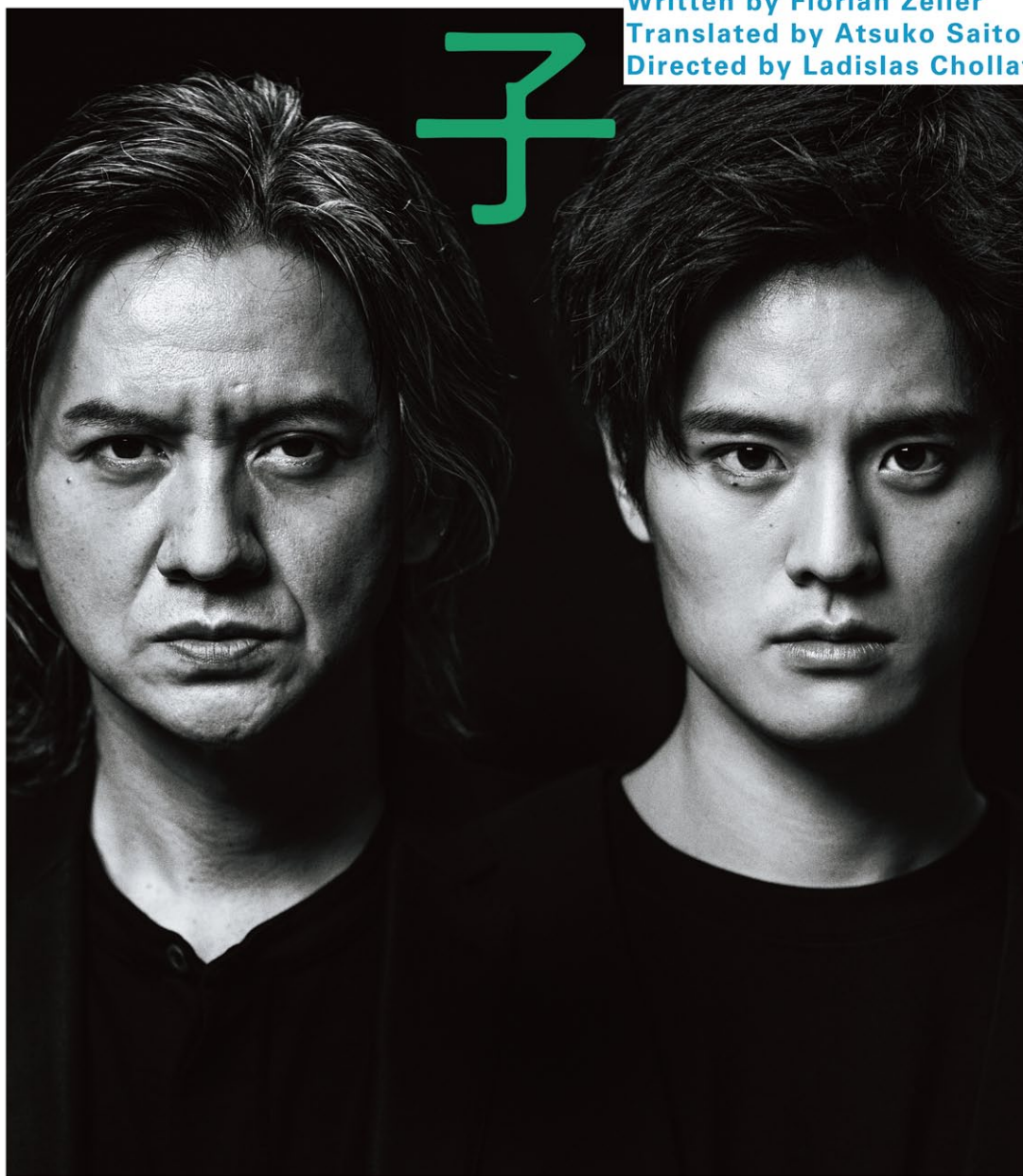
(たまき はるか / 国際デザイン・ビューティカレッジ2年生)

公益財団法人高知市文化振興事業団 主催事業のご案内

CAST  
岡本圭人  
若村麻由美  
伊勢佳世  
浜田信也  
木山廉彬  
岡本健一

# Le 息子 Fils

Written by Florian Zeller  
Translated by Atsuko Saito  
Directed by Ladislav Chollat



2021/9/22[水]~9/23[木・祝] 高知市文化プラザかるぼーと 大ホール

主催 公益財団法人高知市文化振興事業団  
共催 KUTVテレビ高知  
後援 在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランセ日本  
企画制作 東京芸術劇場

<http://www.kfca.jp>

e-mail [kikaku@kfca.jp](mailto:kikaku@kfca.jp)

文化高知 No.222 「隔月発行」  
2021年(令和3年) 8月1日発行

公益財団法人 高知市文化振興事業団

〒781-9529 高知市九反田2番1号  
TEL(088)8831071 郵便番号0168015-14869